



現代座『虹の立つ海』当別公演を ちょっとすてきなまちづくりへの一步に。

伊藤晶子^{さん}(太美南)

現代座『虹の立つ海』当別公演実行委員会委員長。人と人、人と自然、人と地球、そして家族の『絆』の重要性を、演劇をとおして確認してもらいたいと、年齢・性別・職業を問わず主体的に実行委員会組織立ち上げに取り組む。当別町出身。夫・裕彦さん、子・暁彦さん、ひとみさんの4人暮らし。



『虹の立つ海』1シーン

家業の農業のほか、パート・PTA・サークルと目まぐるしい活動をこなしている伊藤晶子さん。

伊藤さんが今、力を注いでいるのが、6月29日に白樺コミュニティーセンターでの公演を予定している現代座『虹の立つ海』当別公演実行委員会委員長の仕事。

「知人を通じて、『虹の立つ海』の当別公演を持ちかけられたとき、内容に興味もあったし、何かお手伝いできたらと思って引き受けました。一緒にやってくれそうな方に声をかけても、皆さん忙しくてなかなか実行委員を引き受けてもらえなかったんです。でも、そのうちにひとりふたりと賛同してくれる方がふえて、ついに実現することができました。集まってくれたメンバーは、学校の先生や団体職員、自営業者や学生など実にさまざまです」と話します。

第1回の実行委員会には現代座の団員の方を交え、劇の紹介、公演のねらいなどを確認し、今後の活動内容を話し合いました。



「チケットをいくらで販売すればいいのか。

会場をどうするか。宣伝は・・・。次々に不安や疑問が沸いてきたときに、以前にも当別公演を成功させた先輩実行委員のアドバイスを受けて、みんなが心ひとつになってやっていこうと確認できました」とこの企画が順調に進んでいることが確信できます。

当別で行う現代座公演は過去に3回行われ、今回は9年ぶりになります。前は、平成6年に総合体育館で『朝の風に吹かれて』を公演。700人もの方が鑑賞に訪れました。

今回の演劇は、「干潟の埋め立てに反対する父親が、家族と共に50年後の世界にタイムスリップし、荒れ果てた世界を目の当たりにする。でも、そこで懸命に運命とたたかう一人の娘の姿に感動し、元の世界で現実に立ち向かう強さを持ってた」というストーリーで、自然や家族、未来を考えさせられる内容です。

回を重ねる実行委員会は、ギター演奏あり歌ありと委員会自体が楽しく、伊藤委員長中心に盛り上がっています。またポスターやチケットの制作などアイデアを出し合いながら、すべて手作りで進めています。「ポスターひとつでも、いいものを作ろうとする思いがぶつかることもあります。完成したポスターの掲示を町内の商店などに行くと、快く引き受けてくれて、地道にやってきた想いが報われます」と委員長としての充実感が伝わってきます。「あとは多くの方が、鑑賞にきてくださると大成功です」とPRに力が入ります。

どうですか。みなさんも、演劇鑑賞に足を運んでみてはいかがでしょうか。

問合せ先 「あえ〜る」
☎ 5-5116

